

第1回 楽しいつどい

～「狂言」昔の劇を楽しむ～

狂言とは・・・

狂言は対話を中心としたせりふ劇。大がかりな舞台装置は用いず、言葉や仕草によってすべてが表現される。大きな特徴は、“笑い”。中世の庶民の日常や逸話を題材に、人間の習性や本能をすどく切り取って、大らかな“笑い”や“おかしみ”にしてしまうというもの。

今年は大和座の方をお願いして、第一部では保護者向けに「盆山」を、第二部では園児（年長・年中児）向けに「柿山伏」を演じて頂きました。演目は異なりましたが、お母さん方は勿論、子どもたちも狂言の“おかしみ”に触れることができたようです。参加された方からは、『こんなに間近で見られたのは初めてで、その迫力と心地良く響くお声に、別世界へ誘われました。・・・』と感想を寄せて頂きました。

集会では、年齢の小さい子から前の席に座らせていますが、狂言だけは年長児を前にしています。年中児では、驚いて泣いてしまう子がいたり、終始圧倒されて、のけぞっている姿があったからです。今年の演目では、お面がなかったので泣いてしまう子はいませんでした。時々「こわい・・・」と言って担任に肩を抱かれる姿がありました。けれど、「こわい」とは言うものの目を逸らすことはなく、じっと見つめているのです。動きを見、声や言葉を聞き、目が離せないほど何かを感じている子どもの様子から、私は改めて狂言が持つ“力”を感じ、日本の古典芸能を大切にしたいと思いました。

聞き慣れない言葉（会話）ですが、動きと重ねて見ているので、子どもたちにもお話の流れや面白さは理解でき、時に驚き時に笑いながら、【心を揺さぶら

れる体験】をすることができました。歌唱指導では、実際に柿を取って食べるという身振りをしたり、山伏の呪文を言ったりして、とても楽しそうでした。

お部屋に戻った子どもたちからは、たくさんの感想があがったようです。

年中児の声・・・

- ・楽しかった
- ・ちょっと怖かった
- ・言葉がわからなかった

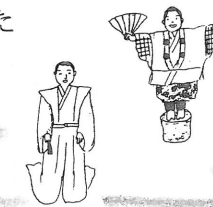
年長児の声・・・

- ・おもしろかった
- ・声が大きかった
- ・声に出していたら、何を言ってるのかわかってきた
- ・柿を食べるのがおもしろかった
- ・柿を食べて、手が小さくなるのがよかった

- ・柿を食べるのがおもしろかった
- ・猿のまねがおもしろかった
- ・じゃらじゃらしてたのがおもしろかった
- ・背中から落ちるのがおもしろかった

- ・ボロンボロのおまじない、たのしい
- ・転んだ時、びっくりした
- ・背中に乗せたのに、もう助けないってゴロンって落としたよね
- ・ドンツと足でしたり、(扇子で)パンツてしたのはどうして？

- ・足、ダンダンってしてた



<運動会参観予定者数確認用紙の提出についてのお願い>

参観当日は多くの方の出入りが予想されますので、安全管理の面から園児関係者の方には、赤いリボンをつけて門を入れて頂くことにしています。参観予定者確認用紙に、参観のために来園される方（12才以上）の人数（入構許可証をお持ちの1名分を除く）をご記入の上、9月29日（土）までに担任に提出してください。

参観後は、門を出られる時にリボンを箱の中に返却してください。なお、翌日も年長組で参観される方はリボンを持ち帰り、翌日参観後に返却ください。

切り取り線

運動会参観予定者確認用紙

くみ・なまえ

うんどうかいの参観には_____名 参加します。

*参観予定者が入構許可証をお持ちの方のみで、リボンが不要の場合でも、確認の為、組・名前を記入して必ず提出してください。